

令和元年度特定外来生物（キョン）防除対策検討委員会（第1回）
議事概要

1. 開催日時 令和元年7月5日（金） 14:00～15:00

2. 開催場所 東京都大島支庁 第2会議室

3. 議事

- (1) 平成30年度キョン防除事業結果について
- (2) 令和元年度キョン防除事業計画について

4. 出席者

■検討委員

石井 信夫	東京女子大学現代教養学部 教授
加瀬 ちひろ	麻布大学獣医学部 講師（欠席）
小池 伸介	東京農工大学 准教授
羽澄 俊裕	環境省登録・鳥獣保護管理プランナー
深澤 圭太	国立研究開発法人国立環境研究所 主任研究員
松林 尚志	東京農業大学農学部 教授（欠席）
武藤 静	環境省伊豆諸島管理官事務所 国立公園管理官

5. 議事内容

- (1) 平成30年度キョン防除事業結果について
 - 1) 平成30年度キョン防除事業実施報告（資料1-1）
 - 希少植物の保護対策として、専門家の方々や植物に詳しい地元の方々にヒアリングした結果と過去の実績から対策を検討していく。
 - 2) 平成30年度捕獲実績報告（資料1-2）
 - 現在は捕獲目標が頭数で設定されているが、頭数に加えて捕獲個体のメス割合を5割にするなどの基準を設定することが、根絶を目指す上で重要な点である。張り網が捕獲個体のオス割合を上げているため、混獲リスクの低い山の中でくくりわなや銃器の活用が望ましい。
 - 捕獲努力量の経年変化やCPUEが見られるようにした方がよい。捕獲努力量あたりの捕獲数（CPUE）を整理すると、効率的な捕獲方法の検討もできる。
 - 3) 平成30年度モニタリング結果報告（資料1-3）

質疑のみ。意見等は特になし。

(2) 令和元年度キョン防除事業計画について(資料2)

- 希少植物については、ヒアリング内容を受けた現地調査も実施すべきである。
- 恒久的な柵と、銃器で捕獲する際に細分化する範囲を囲う柵について、ネットの素材は同じだが、柱に単管または鉄筋棒を使うかで柱の構造が異なる。場所によっては分断柵でも鉄筋を使うこともある。柵の種類についても整理が必要である。
- 捕獲事業者のからネコの錯誤捕獲等、様々な問題も指摘されているため、住民との合意形成のための資料の準備は他国の事例等も含めて丁寧に進める必要がある。
- パンフレットには科学的な内容よりも、なぜ防除や捕獲が必要なのか分かりやすく示す。原案ができた段階で共有してほしい。
- 普及啓発によるキョンへの住民理解を評価できると良い。どこまで理解が進んでいて、今後どの部分の理解を進めるべきなのか定期的に調査した方が効率的である。
- 検討会で出た意見を踏まえて、必要があれば計画案を見直して固める。